「父親のいない父親」

モケモケ　（30 代）

父親のいない俺が、父親になんてなれるのか？
妻の妊娠が分かったとき、そんな疑問が頭に浮かんだ。

私の両親は、私が物心のつく前に離婚した。
そのため私の人生には「父親」という存在が欠落している。
父親の顔も声も仕草も、何もかも分からない。

「お前もとうとう父親になるんだな」と言われても、
父親は何をするの？
父親は何をしてはいけないの？
父親の責務は？
父親はどのように立ち振る舞うの？
父親は子供とどう接するの？
このような疑問が常に頭の中を渦巻いていた。

そして最終的には必ず
父親ってどうすればなれるの？
という問いに行きつくのだ。

周りの知人や友人にそれとなく相談をしても、明確な回答は返ってこない。
父親がいる人間でも分からない問題に、父親がいない私が分かるはずもない。

妻の妊娠中、一応私が想像する父親らしいことはやってみた。
つわりで苦しんでいれば冷たい飲み物やゼリーを買いに行った。
仕事を控えて家事をやるようになった。
妻の気分転換になるようにドライブなどにも行った。
ただこれは、あくまで夫としての行動であって、父親としてではない、ということに気づいてしまう。

結局、私の疑問は晴れないまま、子供は無事に生まれた。
子供を抱いたとき、感動はあった。
ただ、自分は父親になったのだ、という自覚は芽生えなかった。

私の疑問はここで不安へと変わった。
父親の自覚が無い私の腕の中で、子供は寝息を立てているのだ。

私の不安をよそに子供はすくすく成長していった。
ちょうど子供が 1 歳になる直前の頃だったと思う。
私は妻が見ていたテレビ番組を一緒に見ることにした。
それは、子供が初めて自分一人でお買い物にいく、という番組だった。

昔から人気の長寿番組なのだが、私にはその良さが分からなかった。
好きでも嫌いでもない、言ってしまえば全く興味がなかったのである。

その日も何の気なしに見続けていた。
しばらくして、ふと気が付いた。
私は泣いていたのだ。
これまで一切の関心を寄せてこなかった番組で涙を流していたのだ。
私はその番組を、親の視点で見ていたのだった。
「俺は父親になっていたのか。」驚きとともに私は確信した。

ミルクをあげる。
抱っこする。
おむつを替える。
一緒に遊ぶ。
病気の心配をする。
そんな日々を過ごすことで、無意識のうちに父親の自覚は蓄積していくのかもしれない。

私には父親はいない。
だが、私の子供には確かに父親がいる。